

●ポートアイランドに進出した健康食品・化粧品関連事業者(順不同)

| 施設 | 企業名 |
|-----------------|---|
| 神戸臨床研究情報センター | エステローダー グローバルエンジニアリング シクロケム |
| 神戸国際ビジネスセンター | アイ・ディー・オー Beauty & Health Innovation |
| 神戸キメックセンタービル | 上海潤東バイオテックジャパン 森久エンジニアリング ブルボン |
| 神戸インキュベーションオフィス | ユニバーエージェント N.A.gene |
| 製造工場用地 | 幸愛化学 日本冷凍食品検査協会 ノビア 常盤薬品工業 |
| ポートアイランド(第1期) | ポナンザ フジッコ |

2010.7.29現在。神戸市の資料に基づき弊社で作成した。なお、製造工場用地は工場としての入居。またポートアイランド(第1期)は島の北側地区

健食企業も複数進出

医療産業の存在、研究進展にメリット

医療・医薬関連企業の進出が相次ぐなかで、機能性食品・化粧品関連企業の進出も進んでいる。健康食品関連ではフジッコはじめブルボン、シクロケム、森久エンジニアリング、幸愛化学、N.A.gene、グローバルエンジニアリングなどが展開している。

「オフィスとラボを併設できたことが魅力だった。シクロケムの寺尾啓二社長は、ポートアイランド進出の理由をこのように話す。2002年設立の同社。現在は東京・日本橋にも本社を構えるが、ポートアイランドが創業の地だ。神戸国際ビジネスセンター(KIBC)を神戸本社兼研究開発拠点としている。今でこそ各種シクロケムトリン(CD)の販売・製品開発で知られる同社だが、当時、CDのうちアルファとガンマはほとんど認知されていなかった。そのため「まず

は使い方を示す必要があった。そのためのシクロケムストリン応用ラボを、なにに当社が設立できなかった(寺尾社長)。また、市と県からの家賃補助があったことも、これから事業活動を始めようとする同社にとって大きな魅力だったという。



シクロケム社長の寺尾啓二

同社の従業員数は現在30名強。そのうち、約半数の15名が研究員としてKIBCで勤務する。一方で設けられたラボとしての使用区画も当初のI区画から3区画に拡大した。普通、ラボを拡張しようにも直ぐという訳にはいかない。その点で確かに使い勝手

「むしろ逆。ニュートラシユティカルといわれるように、サプリメントと医薬品はお互い近い存在。健康を支えるには治療と予防の両面が必要であり、医学・薬学的知識が豊富な方々に対し、私どもの化学的・栄養学的知識を伝えていくことができるし、その必要がある。」

「シクロケムストリンは人工透析など医療分野でも利用されている。そのような中で、理化学研究所や先端医療センターをはじめとする優れた研究機関や、医療・医薬関連企業が直ぐ近くに存在するということは、当社にとって大きなメリットであり、研究開発の場としては良い環境だ。」

「家賃補助は3年で切れる。その後の家賃に割高感が否めない。当社としてはラボとしての機能を最重要視しているが、オフィスだけだったところから、この課題が解決すれば、ポートアイランドはさらに活性化していくはず。」



先端医療センター、神戸バイオテクノロジー研究・人材育成センター／神戸大学インキュベーションセンター、神戸学院大学、兵庫医療大学、神戸女子大学など、理化学研究所 分子イメージング科学研究センター、神戸バイオメディカル創造センター、神戸臨床研究情報センター

「神戸ポートアイランド」



神戸キメックセンタービル



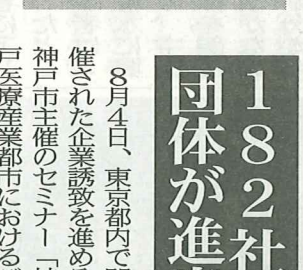
神戸国際ビジネスセンター



神戸健康産業開発センター



神戸医療機器開発センター



神戸インキュベーションオフィス

182社・起業・研究拠点に注

8月4日、東京都内で開催された企業誘致を進める神戸市主催のセミナー「神戸医療産業都市におけるバイオベンチャー発展の可能性」。

ライフサイエンスの街

「これから10年余を経て、ポートアイランド内には現在、「理化学研究所・分子イメージング科学研究センター」など理研関連施設を筆頭に、神戸市が整備した基礎研究から臨床研究への橋渡し機能(トランスレショナルリサーチ)を担う「先端医療センター」や研究ラボ施設など11の中核施設が稼働。来年度には約480億円を掛けて新設する神戸市立中央市民病院が7月に開院するほか、2012年中に世界最高の性能を目指す次世代スーパーコンピュータの稼働も予定されている。

神戸ポートアイランドの北西にある神戸学院大学ポートアイランドキャンパス。2007年に新設された。このキャンパスの一部を占める格好で、ライフサイエンス産学連携センター(LSC)の研究施設が設置されている。LSC設立の狙いは、加齢性疾患の予防・治療に働く機能性食品などの産学連携による開発。ポートアイランドで健康食品の産学連携研究・開発を行うメリットとは何か。同大栄養学部栄養学准教授兼LSC研究員第3グループ長の水品善之氏に話を聞いた。

「ライフサイエンス産学連携センターの設立は、文部科学省「学術フロンティア推進事業」の選定を受け、神戸学院大学大学院・博士後課程の食品薬品総合科学研究科を母体として2006年に設立された。具体的どのような研究を行っているのか。文科省の選定を受けたプロジェクトは「高齢化社会における加齢性疾患の予防・治療薬と機能性食品の開発」が研究テーマ。この課題を表現するために、生活

機関が整備した。さらに来年3月には、新たな研究開発の拠点として、レンタルラボに加え、研究者同士の交流スペースなどの多目的交流スペースを備えた「神戸ハイブリッドビジネスセンター」を竣工させる。また、当初3年間は年間最大200万円の賃料補助も行い、資金面から企業への側面支援を促進。財団法人医療振興財団と連携し、ファンドの創設も行っている。こうした起業・事業創出支援の取り組みが企業進出の呼び水となり、ポートア

イランドが整備した。さらに来年3月には、新たな研究開発の拠点として、レンタルラボに加え、研究者同士の交流スペースなどの多目的交流スペースを備えた「神戸ハイブリッドビジネスセンター」を竣工させる。また、当初3年間は年間最大200万円の賃料補助も行い、資金面から企業への側面支援を促進。財団法人医療振興財団と連携し、ファンドの創設も行っている。こうした起業・事業創出支援の取り組みが企業進出の呼び水となり、ポートア



LSC共同実験室内の様子